

佐賀平野大規模浸水危機管理対策検討会 －活動報告－

1. 前回(平成28年10月)における活動報告の概要
2. タイムラインの取組について
3. 主な施策の取組について

平成29年4月26日

1. 前回(平成28年10月)における活動報告の概要 【直近の災害を踏まえた施策の分析】

- 住民に確実に情報を伝達するための情報提供のしくみづくり、行動計画
- 伝えた情報を避難行動に繋げていくための支援(情報を受け取る側の防災教育)

キーワード

直近の災害及び防災の動きより想定

避難情報の遅延

道路冠水
一時孤立
児童帰宅混乱

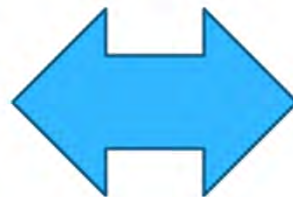
災害時要配慮者の避難

タイムラインの策定

自主避難所開設の判断
学校閉鎖の判断

広域避難の在り方

重視する
内容は一致



アンケート分析

情報収集・伝達

- ◎テレビ放送を活用した河川・高潮防災情報提供
- ラジオによる情報伝達
- CCTV画像による冠水及び洪水状況の把握

広域応援・緊急輸送ネットワーク

災害時の適切な避難のための情報提供

- ◎通行可能道路の把握
- 防災ステーション、防災拠点の活用

連携強化

地域リーダーの育成・タイムラインの策定

- ◎安全・安心な避難所・避難路の整備促進・普及
- 防災マップ整備促進・普及
- 地域リーダーの育成
- 避難・救助に関する計画の検証
- 災害時要援護者の避難支援
- タイムラインの策定と実践

◎は意見が最も多かった項目 ○は上記に次いで意見が多かった項目

1. 前回(平成28年10月)における活動報告の概要 【継続の仕掛け】

■ 先行事例の共有による自治体の意識啓発

伊万里市、唐津市、多久市、小城市、武雄市でマイ防災マップの取組を実施中である。先行事例を実務者連絡会で共有することで、他の自治体への意識啓発を行う。

■ 検証結果の共有によるPDCAの継続実施

H27年度は小城市、白石町でタイムラインを作成し、平成28年度は検証を実施した。平成28年度は多久市で作成し、検証を進める予定。今後は、他自治体に広げていく。

マイ防災マップの取組

H26	伊万里市 全行政区で作成
H27	唐津市 多久市 小城市 武雄市 以上の市で作成中
H28	

**今回
紹介**



作成事例等を実務者連絡会で共有
他自治体へ広げていく

H●●	●●市(町)で作成予定
-----	-------------

タイムラインの作成・検証

H27	小城市、白石町で作成
H28	小城市、白石町で検証を実施
	多久市で作成予定
H29	多久市で検証実施



H●●	●●市(町)で作成予定
-----	-------------

2. タイムラインの取組について 【自治体タイムラインの作成】

自治体のタイムラインは、職員自ら計画案を作成し、実際の災害や訓練を通して検証を行った。学識者や関係機関からの意見を踏まえてタイムラインを改善し、PDCAのサイクルを実践した。

P タイムライン作成



D 実際の災害や訓練等により検証



A タイムライン改善

項目	内容	担当者	完了日	備考
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46
47
48
49
50

C 学識者・関係機関からの意見聴取



2. タイムラインの取組について 【自治体タイムラインの実施状況】

六角川流域のうち、小城市では平成26年から、白石町では平成27年から、多久市では平成28年からタイムラインを作成をスタートし、実災害での検証や学識者や関係機関からの意見を踏まえ改良しました。平成29年度は、江北町でタイムラインを作成する予定です。

小城市

H26	H26.11.17 第1回WS(洪水) P
	H26.12.25 検討会 C
H27	H27.1.28 第2回WS(洪水) P
	H27.2.25 検討会 C
	H27.8.7 事務局会 P
	H27.8.21 第1回WS(土砂) P
H28	H27.8.24 実災害で検証 D
	H27.12.22 第2回WS(土砂) P
	H28.1~H28.2 (洪水+土砂) P
	H28.2.29 検討会 C
	H28.6.22 実災害で検証 D
	H28.9.3 実災害で検証 D
H29	H28.9.20 実災害で検証 D
	H29.2.17 実務者連絡会 C
	・タイムライン(改善) A
H30	

白石町

H27.8.7 事務局会 P
H27.10.13 第1回WS(高潮) P
H28.1.19 第2回WS(高潮) P
H28.2.29 検討会 C
H28.6.22 実災害で検証 D
H28.9.3 実災害で検証 D
H28.9.20 実災害で検証 D
H29.2.17 実務者連絡会 C
・タイムライン(改善) A

多久市

H28.2.29 検討会 C
H28.9.7 事務局会 P
H28.10.24 第1回研修会(洪水) P
H28.12.20 第2回研修会(洪水) P
H29.2.17 実務者連絡会 C
・実災害で検証予定 D
・訓練で検証予定 D
・タイムライン(改善) A

江北町

平成29年度より、タイムラインを作成予定



2. タイムラインの取組について 【多久市タイムラインの作成】

参考1

■タイムライン作成の研修会【多久市】

- 2回の研修会を実施し、洪水を対象とした被災シナリオに基づき、職員自らタイムラインを作成した。
- 1回目の研修では、基礎知識の学習やグループワークを実施し、「災害時の行動を見える化」する作業を行った。
- 2回目の研修では、300項目の防災行動を全対策部で確認、一本化する作業を行った。
- 市長からは「災害をイメージし考えることが重要だ」とする講評があった。



参加人数:約70人

第1回研修会(H28.10.24実施)



参加人数:約60人

第2回研修会(H28.12.20実施)



多久市タイムラインのチラシ

■タイムラインの講評 (H28.10.24 第1回研修会)

— 災害をイメージし考えることが重要 —

- 「災害をイメージする力が大切である。」
- 課長がいなくても若手が災害対応をやらなくてはいけない場面があるので、場面ごとでどうするかを考えることが重要である。



市長の講評

■成果と課題

- 参加した全職員で齟齬がある項目を一本化し、避難準備、医師確保の等の場面を再確認することができた。
- タイムラインが浸透して使えるようになることが課題。

■300項目の防災行動を全対策部で確認&一本化 (H28.12.20 第2回研修会)



参加した全職員でタイムラインを確認し対策部ごとに齟齬がある項目を一本化



■次年度の予定

- 今回の成果を各対策部長が中心となってまとめ、年度内に全職員にタイムラインを共有する。
- 全職員で共有したタイムラインを次年度の5月の訓練で活用し、ブラッシュアップを図るとともにタイムラインの浸透化を図る予定。

■PDCAの実践:タイムラインの検証 【小城市】

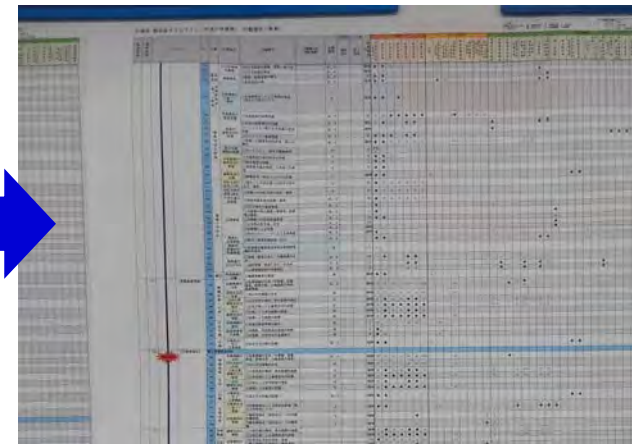
- 9/3~9/5の台風12号におけるタイムライン適用による検証を実施。
- 9/18~20の台風16号及びこれに伴う豪雨時には、台風12号でのフィードバックを活かしてタイムラインを適用して対応した。



本部会議の状況 (H28.9.3実施)



タイムラインの常設状況



■成果と課題

(検証結果について)

- ・台風12号でのタイムライン検証を活かし、前回よりスムーズに対応できた。
- ・活動時期とタイミング、ごみ収集判断、休校判断、細かい点での抜け等を活かすことができた。

(今後に向けて)

- ・晴気川、福所江の水位等の状況が気になった。水位計だけではわからないので、リアルタイムに川の状況を見ることができるようカメラが必要だと考える。

2. タイムラインの取組について 【白石町タイムラインの検証】

参考3

■PDCAの実践:タイムラインの検証【白石町】

○平成28年9月3日台風12号では、実際にタイムラインの表(大判)をホワイトボードに張り出して、実際の行動項目をチェックしながら対策部全員で共有した。

○水防活動時期や休校の判断時期の課題や使い勝手(見易さ)に関する改良点などタイムラインの使用によって具体的な課題を得ることができた。



本部会議の状況(H28.9.3実施)



タイムラインのチェック状況

タイムライン記入の結果

■成果と課題

(タイムラインの行動内容について)

- ・各課(各対策部)の行動は、災害時にチェックできるよう具体的かつ詳細な行動を落とし組む必要がある。
- ・行動時期についてズレがある箇所を修正する必要がある。

(ごみ収集判断はもっと早い。休校判断は遅く等の判断箇所(タイミング)を検討する必要がある。)

(タイムラインの使い易さについて)

- ・大項目、中項目、小項目にチェック欄を明示した。(タイムラインを壁に貼り、行動項目にチェックを実施し、行動の確認ができた。)
- ・メイン担当等で色分けするなど、見易さの工夫も必要(行動や主体課・連携機関の視認性を向上。)